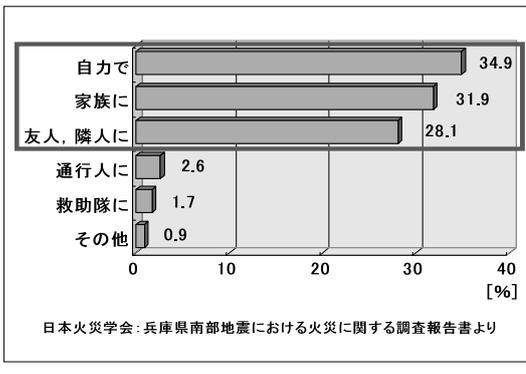


お知らせ
自主防災組織について

阪神大震災では、左図のとおり約95%の方が、自助・共助により救出されています。



大規模な災害が発生した場合、広範囲に被災するため、警察、消防、町などのできること（公助）には、限りがあります。そのため、まず自分や家族の安全を守り、そして隣近所で助け合うことが必要になってきます。

町では、自主防災組織の新規結成及び既存組織の活性化について、訓練や学習会を通じて様々な支援・助成をしています。

— 平成26年1月1日の組織率 —

	人口	世帯	組織率	組織数 地区数	組織数 自主防
いの	23,084	9,923	91.36%	178	111
伊野	19,926	8,358	89.90%	116	58
吾北	2,599	1,247	100.00%	48	43
本川	559	318	100.00%	14	10

▼補助金について

町では自主防災組織に対して補助をしています。

【新規自主防災組織】

1組織につき70万円以下

【既存自主防災組織】

1組織につき5万円以下

※平成25年度から、既存自主組織が近隣の未加入地区と協力して一つの自主防災組織として活動する場合、別途10万円を補助

▼自主防災組織率（いの町）

▼自主防災活動について

各自主防災組織では、それぞれ工夫していますが、大きく分けて以下の活動をしています。ご自分の地区で実施される訓練などに積極的に参加しましょう。

①災害を知る

各地区に町、高知県、気象台などから、お伺いして学習会を開催します。

【町】

いの町での地震・津波災害、耐震への取組、土砂災害など

【高知県】

こうち防災備えちよき隊員の派遣。防災砂防課や中央西土木による土砂災害に関する学習会の開催

【気象台】

特別警報や、地震・津波に対する取組など

【消防署】

火災全般災害に備えた心構えなど

【その他】

人と防災未来センターや徳島防災センターの見学など

②地域を知る

地域の危険箇所や避難経路を確認し防災マップを作成します。

また、災害発生時に迅速な

避難が困難な災害時要援護者の方について、地域全体で共有することが重要です。

③訓練をする

【救急救命訓練】

仁淀消防組合署員や日本赤十字社などの指導のもと、救急救命法や応急手当について学習します。3時間の所定の講習を受講すれば、「普通救命講習終了証」が交付されます。また、時間に応じてAEDの使い方など、柔軟な対応が可能です。

救急搬送が一番多いのは、自宅で倒れたときとなっています。救急車が来るまでできる処置をすることが非常に重要です。

また、緊急時の搬送法や骨折や熱中症などの応急手当の学習も実施します。

高知県所有の起震車を活用した訓練です。実際に地震の揺れを体験して、自宅での家具の配置や転倒防止について家族で話し合いました。

火災発生時、火の小さいうちに初期消火することは非常に重要です。消防署や消防団の指導のもと、消火器取扱訓

練や、消防署通報訓練、天ぷら火災の消火訓練を実施します。

【資機材訓練】

自主防災組織で購入した資機材を実際に使ってみて、訓練を実施しましょう。いざという時に使用できるよう、定期的なメンテナンスが重要です。

【避難訓練】

消防団と協力しながら、避難所まで避難する訓練です。所要時間や問題点、実際に訓練をして、見えてくることがあります。また実際に体を動かすことで、災害時のスムーズな避難につながります。その内容をまた地域の防災マップに反映して情報共有を図ることが大切です。

■自主防災組織に関する問い合わせ

伊野地区
総務課

吾北地区
☎ 893-1113

吾北総合支所住民福祉課
☎ 867-2300

本川地区
☎ 869-2112

本川総合支所住民福祉課
☎ 869-2112